

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	20458	
事業名	救急医療対策費						
評価担当課	所属名	保)保健所 医療政策課					
	課長名	高田 誉之	担当者名	佐藤 奈津美	電話番号	011-622-5162	
施策名	主	-					
	副						
アクションプラン	○ 対象 ● 対象外		戦略ビジョン	○ 対象 ● 対象外			
事業の性質	● 経常経費 ○ 臨時的経費						
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理						
事業内容	実施形態	○ 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ● 補助助成 ○ その他					
	目的	短期	夜間・休日であっても、市民が安心して救急医療機関を利用できるようにするため。 新型コロナ流行期において、十分な数の救急当番医療機関を確保できるようにするため。				
		長期	救急医療体制を安定的に確保するため。				
	取組内容	①救急医療体制の確保に対する補助金:休日救急当番制度、土曜午後救急当番制度、救急告示医療機関制度、二次救急医療機関制度、眼科救急医療機関制度に対する補助 ②口腔医療センター歯科診療事業:夜間における歯科急病者及び障がい者に対する歯科診療事業運営費を補助 ③救急医療体制対策会議の運営:会議を開催し、救急医療体制における課題等を協議					
	実施結果	令和3年度に救急医療機関制度を利用した延べ人数 74,328人 ・休日救急当番制度 28,066人 ・土曜午後救急当番制度 2,380人 ・救急告示医療機関制度 26,215人 ・二次救急医療機関制度 12,533人 ・眼科救急医療機関制度 4人 ・口腔医療センター歯科診療 5,130人					
事業実施における工夫点	救急医療機関の当番情報を、ホームページだけでなく、新聞各社を通じて、毎日広報している。また、救急安心センターさっぽろで案内している。						
対象者	休日・夜間の急な病気やケガで、受診が必要な市民			開始	昭和42年度	終了	0年度
関連法令・条例・要綱等	・救急医療対策事業実施要綱(昭和52年厚生省医務局長通知) ・北海道医療計画(平成30年3月策定) ・さっぽろ医療計画2018(平成30年3月策定)						
他都市の状況	各政令指定都市における救急医療体制は、各都市の実情に応じ、年間全日の体制で整備・運営されている。						

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	357,600	371,180	359,577	388,002	
うち特定財源	12,916	12,925	12,925	12,916	
人工	0.5	0.5	0.5	0.6	
人件費	3,600	3,600	3,600	4,320	
計(事業費+人件費)	361,200	374,780	363,177	392,322	
事業費の内訳	令和3年度決算	①②救急医療機関に対する補助金(359,577千円) ・休日救急当番制度(29,529千円) ・土曜午後救急当番制度(6,686千円) ・救急告示医療機関制度(66,419千円) ・二次救急医療機関制度(198,274千円) ・眼科救急医療機関制度(1,000千円) ・口腔医療センター歯科診療(57,669千円)			
	令和4年度予算	①②救急医療機関に対する補助金(387,925千円) ・休日救急当番制度(30,629千円) ・土曜午後救急当番制度(6,586千円) ・救急告示医療機関制度(67,606千円) ・二次救急医療機関制度(199,639千円) ・眼科救急医療機関制度(1,000千円) ・口腔医療センター歯科診療(57,669千円) ・体制見直しによる補助額増額(24,796千円) ③救急医療体制対策会議に関する費用(77千円)			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	救急医療機関として参画する医療機関数(二次救急医療機関数)				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定		
	57医療機関	57医療機関	56医療機関	57医療機関		
活動指標2	指標名	救急医療機関として参画する医療機関数(救急告示医療機関数)				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定		
	51医療機関	50医療機関	49医療機関	50医療機関		
成果指標1	指標名	救急医療機関制度を利用した延べ人数				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標		
	70418人	70418人	74328人	74328人		
成果指標2	指標名					
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標		
項目	判定	理由				
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	令和3年度は令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により救急医療機関の利用者が減少しているが、延べ74,328人が救急医療機関を利用しており、本事業の重要性が示された。 また、利用しなかった市民にとっても、何かあったときに利用できる救急医療体制が整備されていることで、安心して生活を送ることができていると考えている。				
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	B	現在の体制では、救急医療機関のうち、当番病院として日ごとに割り当てられた医療機関が救急患者の受入を行うこととなっているが、実際には当番病院だけでは受けきれず、半数近くの患者が当番病院以外の医療機関に搬送されており、救急患者数に見合った規模の救急医療体制とはなっていない。 さらに、令和6年4月に施行される「医師の働き方改革」の影響により、現在と同水準の体制確保が難しくなると想定されるため、体制の維持には、これまで以上のコストが必要となるものと考えられる。				
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	B	輪番による当番体制は不採算となる場合が多く、体制維持のために補助金を支給する手法は適切であると考え。一方、これまでは、各当番病院の受入患者数や応需率と関係なく一定額の補助であったため、多数の救急患者を受け入れることに対するインセンティブが働かず、当番病院における受入が低調となる傾向があったため、出来高制の導入等により救急当番病院のモチベーションを向上させる仕掛けが必要であると考え。				
対象者の満足度 (対象者のニーズに込えているか)	B	これまでの救急当番体制に関して大きなトラブルや致命的な事態は発生していないものの、高齢化に伴う救急搬送件数の増加や複合症状により医療機関の選定に時間を要すなど、救急搬送困難事案数が増加している。そのため、救急患者の搬送先を円滑に決定できるよう対策が必要である。				
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応		<input type="checkbox"/> 回答 <input checked="" type="checkbox"/> 反映	
今後の改善点	救急当番への参画医療機関の減少や人員の不足等により、救急搬送困難事案数の割合が増えていることから、救急医療体制に参画する医療機関を安定的に確保するための継続した対策が必要。					
前回の評価	○ A ● B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし					
今年度取り組んだ見直し内容	救急医療体制全体の見直しを行うための会議体を設置し、検討を進めている。			見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	○ A ● B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし					
評価の理由	救急医療体制に参画する医療機関を安定的に確保するための継続した対策が必要。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善 ○ 現状維持 ○ 休止・廃止 二次救急体制について、受入拡充や体制維持のための支援を実施する。また、初期救急体制についても検討を行っている。				
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ その他 現行の補助金の見直しを行うとともに、新たな二次救急体制に係る補助制度を実施する。			見直し効果額	0